

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

調査結果から見えること(その一)

自分の可能性を広げようという学期で

4月に3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を、7月には、全学年を対象に「学校評価を実施し、それらの結果をとりまとめました。「学校評価」へのご協力、ありがとうございます。

「良かった点」は更に伸ばし、「改善が必要な点」は、しっかりと課題を全職員・保護者と共有し、自分の可能性を広げようという学期にします。

今回は、「嬉しかった評価」もつと伸ばしたい評価を一部抜粋してご紹介します。



学年練習で見つけた課題を乗り越えよう

全国学習状況調査

- ①「自分には、よいところがあると思う」(本校89.6・長崎県85.8・全国83.3)
- ②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていてると思う」(本校95.2・長崎県91.3・全国90.4)
- ③「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」(本校90.4・長崎県86.2・全国86.1)
- ④「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」(本校75.2・長崎県58.4・全国64.8)
- ⑤「自分と違う意見について考えるのは楽しい」(本校81.6・長崎県75.6・全国76.2)
- ⑥「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか。」(本校64.0・長崎県28.0・全国31.0)
- ⑦「ICT機器を活用することで、分からないことがあった時に、すぐ調べることが出来る」(本校99.2・長崎県93.8・全国93.9)
- ⑧「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることが出来る」(本校84.0・長崎県77.5・全国77.7)
- ⑨「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」(本校88.8・長崎県63.3・全国82.2)
- ⑩「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を押えて理解している」(本校87.2・長崎県78.1・全国78.7)
- ⑪「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしている」(本校66.4・長崎県77.1・全国47.0)
- ⑫「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりする」ことがある」(本校80.8・長崎県71.4・全国70.7)
- ⑬「原稿などの準備をする」ことなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う」(本校80.8・長崎県67.2・全国68.8)
- ⑭「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」(家族と過ごす

学校評価

- いる」と回答した生徒(本校76.8・長崎県71.1・全国68.0)
- ⑮「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます)」「2時間以上使用している」と回答した生徒(本校48.0・長崎県43.9・全国55.9)
- ⑯「学校は、地域と協力し伝統・校風を大切にしたい」と教育を行っている」(生徒95.5・保護者96.3・教師86.6%)
- ⑰「生徒は、学校行事や部活動(習い事)に意欲的に取り組んでいる」(生徒93.3・保護者91.1・教師89.9%)
- ⑱「生徒は、足りないところや失敗もあるけれど、前向きにがんばろうとしている」(生徒90.0・保護者92.2・教師91.1%)
- ⑲「生徒は、自分のスケジュールや健康を自分で管理し、

考察

まず嬉しかったことは、①「自分には、よいところがあると思う」②「先生は、あなたのよいところを認めてくれていてると思う」という項目で、本校生徒は、それぞれ全国平均を6.3ポイント、4.8ポイント上回りました。

このことから、本校生徒は、自己肯定感が高く、学校生活に意欲的であることが見て取れます。この



新入生説明会のひとこま みんな待ってるよ

自己肯定感は、日々の学校生活向上に繋がり、困難な課題にも積極的に取り組む姿勢を育むことができているのではないかと考えられます。

③「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いた」という項目では、全国平均を4.3ポイント上回り、高い数値でした。これは、生徒たちが単に知識を詰め込むのではなく、自ら考え、対話を通して学びを深めていることを示唆しており、学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒たちの意識が高くなっ

ていることを感じました。ICT活用能力の向上については、⑥、⑧の結果から、本校では、ICT機器の活用が進んでおり、生徒たちは分からないことをすぐに調べたり、自分の考えを効果的に伝えたりできるようになっていくことが分かり、大変嬉しい結果でした。

次に、学校評価アンケートでは、生徒・保護者ともに過去3年間で最も高い数値が多くありました。その中で、教職員と生徒、そして保護者との連携・関係が良好であることが分かります。

②「教師と保護者はよくコミュニケーションをとって

いる」という項目では、三者ともに80%を超えており、高い評価を得ました。

さらに、②「学校は、各種通信やホームページ、forum、PTA広報紙でよく情報を発信している」という項目では、三者とも90%を超えました。教職員と生徒、そして保護者との良好な関係があるからこそ、生徒の学校生活や学習意欲の高まりにつながり、より質の高い学びにつながるものです。

放課後や週末に家族と過ごす時間が長いこと、平日のメディアの使用時間が短いことなどは、昨年度から取り組んでいる「校中メディア」に家族で取り組んでいただいている成果でもあると思います。

そして、⑩「学校は、地域と協力し伝統・校風を大切にしたい教育を行っている」という項目では、生徒・保護者ともに95%を超えました。学校が地域と協力し、伝統と校風を大切にしたい教育を行っていることが伝わり大変嬉しい評価をいただきました。

今回の調査結果を踏ま

え、本校では、授業において、ペアワークやグループワークなど、生徒同士が対話しながら学びを深める機会を増やすこと、クロームブックをより効果的に活用し、生徒の学習意欲を高め、創造性を育む教育を進めていきます。保護者の皆様からの回答では、14項目において、過去3年間で最もよい回答をいただき、生徒達の頑張りややさしく温かく見守ってくださっていることが分かります。日々のご支援に大変感謝しております。2学期も、「励まし合える・支え合える・認め合える」ことのできる仲間づくりを後押ししていきたいと考えています。

今後とも、保護者との連携を深め、家庭と学校が一体となって子どもたちの成長を支援してまいります。何か、気になることがございましたら、いつでも相談ください。

3年生のこころ

■生活面
○挨拶がいい。
○専門部への積極的な活動(責任感が増えてきた)

(下足箱の靴並べ等)。
○行事を通して協力することや努力することの大切さを実感し、成長が感じられた。

○給食の残食が少ない。
○321運動がほぼ完璧
○身の回りの整理整頓ができる生徒がほとんど。
○清掃活動や環境美化にもしっかりと取り組む。

■学習面
○授業態度が良好。楽しく取り組んでいる教科も多くあり意欲が感じられる。

○教え合い活動が更に上手になった。
○キュビナに積極的に取り組んでいる。

■行事
○企画運営において行事成功を目的とする最高学年としての姿勢が素晴らしい。

○大運動会では、応援合戦の練習において、12年生に本校の伝統を伝えると共に、厳しく優しく後輩を指導してくれた。後輩に協力する姿は立派だった。競技中の応援やダンスでも協力的で楽しく意欲的に活動する姿が見られた。

○最後の中総体にも中心選手として出場し、部活動を引っ張ってきた先輩としての姿を後輩に印象づけることができた。また、23年生での応援においても応援団を中心に主体的に活動し、感動的な時間となった。

児童虐待とは

先日、児童虐待防止に関する研修会に参加したので、掲載します。

児童虐待とは、児童虐待の防止等に関する法律(平成17年法律第88号)によると、児童を監護する保護者が児童の人格を著しく侵害し、その心身の成長及び人格の形成に重大な影響を与える行為のことをいいます。

虐待とつけのの違い

くんち、頑張れ!

今年の長崎くんちに参加する生徒については前号でも紹介しましたが、次の2名の生徒も参加します。

○銅座町自治会 年番町 御神幸供奉縦列
さん(2年3組) 君(1年1組)

日々の稽古に熱心に取り組んでいます。頑張ってくださいね。みんな応援しよう。

なお、前号で、君(2年4組)と掲載していましたが、君の誤りです。お詫言して訂正いたします。さん(2年3組)。

「ちよつとおかしいな」「行き過ぎではないか」と思われる親の態度を見たとき、それが虐待なのか、あるいは「しつけ」なのかと迷うことがあります。その際は、次のような点に注意してみるとよいと思います。

○子ども自身が理由を納得できているか。
○子どものした行為と罰の程度が相応しているか。
○親の感情をぶつけるだけの叱り方をしていないか。

大切なことは、たとえ愛情に根ざしたしつけのもりであっても、親の行為が子どもに著しい痛みや苦しみを与えるものであれば、それはまさしく虐待であるということです。